

年老いた小売商は

今、明治12年(1879)の地図を見てください。

コツ通りは現在の渡辺文具まで(城北信用金庫から天王様通りに50m位)までしか人家がなく、あとは泪橋を超えて山谷地区に入らないと家並みはなく、水田と原野の町でした。

明治になり、処刑場が市ヶ谷に移転しました。明治20年(1887)には小塚原火葬場も日暮里に移転し、明治21年3月には跡地に数百本の桜樹を植込んだと当時の新聞が報じています。

その後、南千住地域への工場群の進出により人口増加し、それに伴い商店も増えました。明治30年(1897)あたりから南千住駅(明治28年開業)周辺も開け始めました。

コツ通りも、お地藏様のある大フミキリまで人家が立並ぶようになり、商店街としての賑わいを見せ始めました。



大正3年(1910)には王子から三ノ輪橋まで王子電車が開通して荒川地区の西に行く乗り物が確保され、電車の利用者の通う道としてジョイフル三ノ輪とコツ通り駅前とを結ぶ仲通り商店街が発展して行きました。一時はコツ通り入口より現日光街道のところまで140余の店が賑やかに商売をしていました。しかし、地下鉄千代田線及び日暮里舎人ライナーの開通により、通行する人々が減少しました。また、流通の変化、消費者と小売商たちとのコミュニケーション不足等々により、一部の商店街を除く大方の店が廃業への道を進んでいきます。

今までの小売商のやり方では消費者の皆さんに必要とされなくなり、小売商は消えていくのみです。

コツ通り杉山六郎

吉田喜一教授のものづくり



2年生旋盤実習1年ぶりの感想

都立産技高専名誉教授 吉田喜一

●久しぶりで、忘れていたが徐々に思い出しよかったです。1500回転がとても速かったです。削るときすごい煙がでてきた。旋盤の自動送りをはじめ使ったが、自分で削るよりもきれいだっただけ怖かったです。一番はケガに気を付けてガンバリたい！作業の順番を忘れていた。もったきちんと覚えたい。●久々だったので疲れたし、前回の手順をあまり覚えていなかったのが悲しかったです。自動送りは初めてしたけれど、便利だなあと思いました。けど、やっぱり高速回転は少し怖いなと思いました。次回もがんばりたい。●久しぶりに旋盤を触ったので、操作を忘れてるところもあったが、おおむねうまくいったので良かった。次回実際に加工を開始するということなので頑張りたい。●今回初めて鉄を削る旋盤作業をやった。旋盤加工状態はロボ研にいる関係でやっているのだが、アルミぐらいでしかやらなかった。感想としては、怖いけど楽しい。金属が煙をふいていたり、回転数がかかり速い事で、このように思った。今後部品精度を求めるとかなり不安が残る。でも頑張るしかないですが・・・



生まれ変わる「東京メトロ日比谷線」の話題

こんにちは。メガネのサトウ4代目です。今月中旬の深夜、南千住4丁目にある日比谷線の車庫に、大型トレーラーに寄せられた新型車両が搬入されました。28年ぶりに大幅な設計変更が行われたニューモデル(13000系)です。写真で見ただけの外観は、これまでの日比谷線のイメージを踏襲しつつ近代化した印象ですが、大きく変わったのは車両1両あたりの長さで乗降口の数です。

これまで日比谷線は、1両の長さは18メートル、乗降口は片側3ヶ所の車両で、8両編成でした。平成2年からはラッシュ対策として、前後2両について乗降口が片側5ヶ所のタイプも登場しました。それが新型車両では、1両の長さは19メートル、7両編成で、乗降口は片側4ヶ所に統一されることになりました。走行装置や車内設備も最新式のもので導入され、省エネ性・快適性・利便性も向上するという事です。

新型車両はこれから試験走行などを行い、今年度中にデビューする見通しで、東京オリンピック前に既存車両との置き換えを完了させるとのことです。相互乗り入れの東武鉄道でも同様の新車を導入し、全ての車両が統一された時点で、日比谷線各駅にはホームドアの設置が行われる予定です。

また、霞ヶ関駅〜神谷町駅間に、(新)虎ノ門駅が建設中で、こちらもオリンピック前に暫定開業の見通しです。前回の東京オリンピック直前に開業した日比谷線は、奇しくも、今回の東京オリンピック直前に大きく生まれ変わります。

■メガネのサトウ■

南千住5丁目43の13【コツ通り】

TEL 03(3806)4930

★休業日のご案内【当店は不定休です】★

6月:30(木)

7月:10(日)、18(祝)、23(土)

★営業時間のご案内★

平日(月〜金):AM9時〜PM6時30分

土・日・祝:AM10時〜PM5時



消費生活アドバイザー 佐藤祐一郎